



排ガスの測定結果[規十二条の七の二-二、規十二条の七の五-二]

	ばいじん (6カ月に1回以上)		ダイオキシン類 (1年に1回以上)	
採取位置	別紙1のとおり		別紙1のとおり	
採取した年月日	平成30年4月23日	平成30年10月22日	平成30年4月23日	
測定結果が得られた日	平成30年5月9日	平成30年11月5日	平成30年6月1日	
硫黄酸化物	0.014未満 (mN/h)	0.015未満 (mN/h)	ダイオキシン類測定結果	0.024ng-TEQ/m3
ばいじん	0.02未満 (g/mN)	0.02未満 (g/mN)		
塩化水素	3.3 (mg/mN)	12 (mg/mN)		
窒素酸化物	56 (ppm)	80 (ppm)		

東北クリーン開発株式会社



排ガスの測定結果[規十二条の七の二-二、規十二条の七の五-二]

	ばいじん (6カ月に1回以上)		ダイオキシン類 (1年に1回以上)		
採取位置	別紙1のとおり		別紙1のとおり		
採取した年月日	平成31年4月22日		令和元年10月23日	平成31年4月22日	
測定結果が得られた日	令和元年5月8日		令和元年11月1日	令和元年5月29日	
硫黄酸化物	0.013未満	(mN/h)	0.072	(mN/h)	ダイオキシン類測定結果 0.016ng-TEQ/m3
ばいじん	0.02未満	(g/m <sup>3</sup> N)	0.02未満	(g/m <sup>3</sup> N)	
塩化水素	6.7	(mg/m <sup>3</sup> N)	24	(mg/m <sup>3</sup> N)	
窒素酸化物	66	(ppm)	78	(ppm)	

東北クリーン開発株式会社



排ガスの測定結果[規十二条の七の二-二、規十二条の七の五-二]

	ばいえん (6カ月に1回以上)		ダイオキシン類 (1年に1回以上)	
採取位置	別紙1のとおり		別紙1のとおり	
採取した年月日	令和2年4月27日		令和2年10月20日	令和2年4月27日
測定結果が得られた日	令和2年5月18日		令和2年11月9日	令和2年6月2日
硫黄酸化物	0.012未満	(m <sup>3</sup> N/h)	0.16	(m <sup>3</sup> N/h)
ばいじん	0.02未満	(g/m <sup>3</sup> N)	0.02未満	(g/m <sup>3</sup> N)
塩化水素	30	(mg/m <sup>3</sup> N)	89	(mg/m <sup>3</sup> N)
窒素酸化物	73	(ppm)	77	(ppm)
			ダイオキシン類測定結果	0.034ng-TEQ/m <sup>3</sup>

東北クリーン開発株式会社

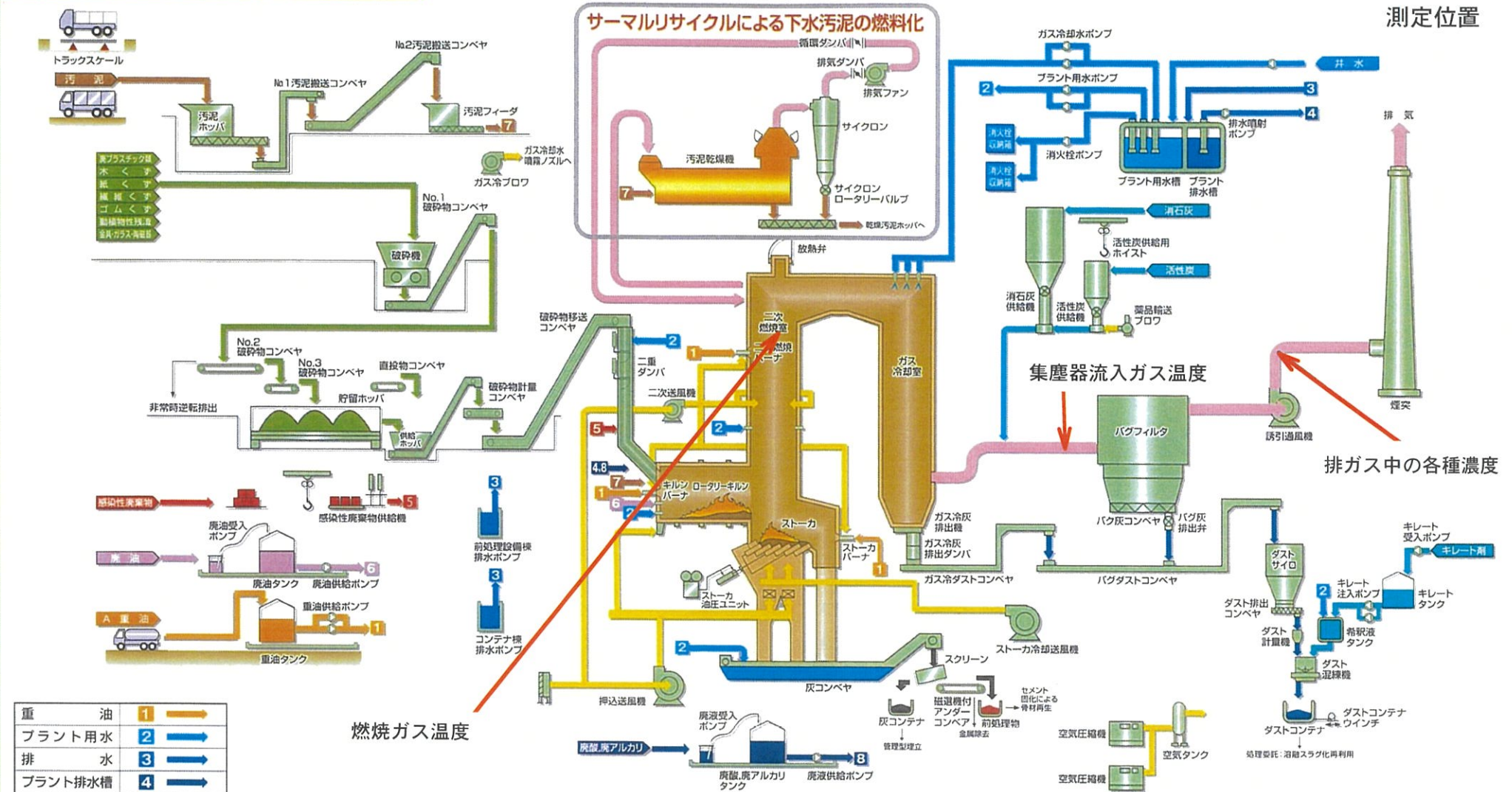


排ガスの測定結果[規十二条の七の二-二、規十二条の七の五-二]

	ばいえん (6カ月に1回以上)		ダイオキシン類 (1年に1回以上)	
採取位置	別紙1のとおり		別紙1のとおり	
採取した年月日	令和3年4月26日		令和3年4月26日	
測定結果が得られた日	令和3年5月12日		令和3年5月24日	
硫黄酸化物	0.014未満	(mN/h)	ダイオキシン類測定結果	0.035ng-TEQ/m3
ばいじん	0.02未満	(g/m <sup>3</sup> )		
塩化水素	6.8	(mg/m <sup>3</sup> )		
窒素酸化物	64	(ppm)		

東北クリーン開発株式会社





重油	1	→
プラント用水	2	→
排水	3	→
プラント排水槽	4	→
感染性廃棄物	5	→
廃油	6	→
汚泥	7	→
廃酸、廃アルカリ油	8	→
廃棄物	→	→
空気	→	→
排ガス	→	→
薬品等	→	→
焼却灰	→	→

### ◆焼却施設概要

- 施設規模 / 80t/日(24時間運転)
- 取り扱う産業廃棄物の種類 / 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、ばいじん、13号廃棄物、感染性廃棄物、一般廃棄物
- 前処理 / 150mmアンダー破砕機による前処理
- 燃焼方式 / ロータリーキルン+ストーカ燃焼
- 冷却方式 / 水噴霧式
- ガス処理 / バグフィルタ・消石灰による乾式脱塩除去及び活性炭によるダイオキシン吸着除去
- 飛灰処理 / キレート処理
- 排水 / クローズドシステム(無放流)

### ◆焼却施設の特徴

- 最新鋭産業焼却プラント
- ダイオキシン排出基準、設備構造基準など全てに最新技術を採用
- キルン+ストーカ式焼却炉の採用により、様々な廃棄物を一括処理
- 感染性廃棄物など容器系有害廃棄物の直接投入の処理が可能
- 独自の貯留方法の採用(先入れ先出し)により、長期貯留による腐敗・悪臭・ごみ停滞を解消
- 高熱量ごみにも対応できるように、強制空冷ストーカを採用